

研究タイトル：

屋根から見た日本伝統建築 屋根形状と室構成に関する研究


氏名： 東野 アドリアナ / HIGASHINO Adriana E-mail: adriana@akashi.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本建築学会・ドコモモジャパン

キーワード： 建築史、デザイン、形態分析、建築論

 技術相談
 提供可能技術： 日本建築史、西洋建築史、グラフィック デザイン、異文化、コミュニケーション

研究内容：

概要：複雑な形をもつ、日本家屋や伝統建築物に関して、どのようなルールでその形が決まってきたのかを時代背景や平面構成から明らかにします。

内容：日本の屋根には切妻と寄棟の二つの基本形態があり、その他の形としてみられるものは、切妻と寄せ棟の組み合わせとして捉えることができます。また、屋根に使われる材料は、多様な材がみられ、屋根の形態によって使われている材が異なります。さらに、建物によっては上座、下座や格式の高い、低い部屋が用途として存在します。これらの関係を重ね合わせ、建物における屋根形状のルールを見つけ出します。

特徴：古い文献や、図面資料から当時の社会背景や生活様式を読み解く一方で、屋根の形という物理的なものの収まりを重ね合わせて考える論考は類を見ません。また、構造や工法という観点も多く、既往研究に見られることから、格式や生活様式という観点を中心とした視点は、当研究の特徴です。

応用：現存しない古建築や、改築、改修によって建設当時の形をなくしてしまった建物は、全国に数多くあります。屋根伏図が無くても、建物の使用方法や建設当時の生活風習が分かれば、平面との関係から屋根の形を想定することが可能です。このような論考は、古建築の復元、修復の際に重要な資料として利用されます。

目標：日本の伝統建築は幅広く、原始住宅から仏教建築、神社、城郭、近代和風住宅など、時代、用途の異なる建物が含まれます。より多くの検証例を集め、さらに近代にまで対象を広めることで、屋根と平面からみた伝統建築の通史を描くことを目標とします。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	